

令和7年度 国府中学校「学びの道しるべ」

令和7年10月吉日 小松市立国府中学校

保護者の皆様には、日頃より国府中学校の教育活動にご理解とご支援をいただきまして、誠にありがとうございます。今年度も半年が過ぎ、1学期の運動会や加賀地区ブロック大会、2学期の修学旅行や遠足、小松市中学校新人体育大会等、多くの学校行事を予定通り行ってくることができました。後期は合唱コンクール・文化祭、学校公開ウィーク等も予定しています。ぜひ、ご来校いただけすると幸いです。

さて、4月に実施しました3年生対象の「全国学力・学習状況調査」の結果及び分析結果が下記のようにまとめました。これらの結果を保護者の皆様と共有し、学校と家庭が連携しながら、子どもたち一人一人の確かな学力や豊かな心を育む教育に取り組んでいきたいと考えております。今後ともご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。

1 全国学力・学習状況調査結果（本校と県・国との正答率の比較）

	石川県	全国
国語	平均並み	やや上回る
数学	やや下回る	上回る

県との比較においては、平均並みかやや下回る結果となりました。全国との比較においては、やや上回るか上回る結果となりました。

本校の特徴として、『知識・技能』に関する問い合わせ良好な結果であり、これまでの学習の成果が見られました。

課題としては、「資料や既習の知識を活用し、考察したり説明したりする力が十分に身についていない」という点が上げられます。

2 設問から見える成果（◎）と課題（▲）

国 語

◎書く内容の中心が明確になるように、内容のまとめを意識して文章の構成や展開を考えることができている。

◎自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができている。

◎相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように、表現を工夫することができている。（相手のことを考えながら根拠を持って表現することができている）

▲文脈に即して漢字を正しく使うことが苦手である（文脈から意味を捉えることができていないか、捉えても漢字を選ぶことができなかった）。

▲自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を考えることが苦手である（話の順序を入れ替えることで、展開がどのように変わるか捉えられていない）。

▲資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができ苦手である（条件のどちらかが抜けている生徒が多い）。

▲文章の構成や展開について、根拠を明確にして考え、自分の言葉としてまとめ表現することができ苦手である（条件のどちらかが抜けてしまう生徒が多い）。

数 学

◎確率についての理解がよく、確率を求め、物事のおこりやすさについて確率を用いて説明することができる。

◎連續する3つの3の倍数の和が9の倍数になることの説明文を完成させるなど、説明文を書くことが上手にできる。

◎図形の証明もよくできるが、平行//の記号と=の書き間違いや、簡潔に証明できるものを、難しく証明してしまう傾向がある。

▲1次関数 $y = ax + b$ で x の増加量を用いて y の増加量を求めるとき、増加量に b も加えてしまうミスがみられる。

▲相対度数を分数で答えてしまったり、割り算でミスをしてしまったりがみられる。

▲多角形において内角の大きさが 50° のときの外角の大きさを求めるとき、 180° との差ではなく、 360° との差を求めてしまうミスがみられる。図をかいて、外角は辺を延長して外側にできる角であることを思い出すとミスを防ぐことができる。

3 質問紙調査の結果から

良好なもの（県・全国と比較して、肯定的回答が特に多かったもの）

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」

「学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか。」

→教わっていないとの回答が多く、自分で調整しながら学習を積み重ねていると考えられます。

「授業でICT機器を1日1回以上使用している。」

「先生はあなたのよいところを認めてくれている。」

「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」

課題となるもの（県・全国と比較して、課題となる回答が多かったもの）

「毎日同じ時刻に起きていますか。」

「自分にはよいところがあると思いますか。」

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」

「平日1時間以上勉強している。」

「ICT機器を使っての情報の整理やプレゼンテーションの作成」

4 全国学力・学習状況調査、質問紙調査の結果を踏まえた取り組みについて

（1）学校での取り組み

基礎基本の定着に向けて

- ・知識及び技能定着のための単元テストや小テストを計画的に実施する。
- ・学習用端末の効果的な活用（メインの活動を確保するための工夫、ポイントの焦点化、学習eポータルAI型教材（Qubena）の活用など）
- ・質問教室や補充学習を設けるなど個に応じた指導や家庭学習方法の指導を今後もしていく。
- ・授業における「振り返り活動」を継続し、学習内容を整理する時間を確保する。

特別活動や生徒会活動との関連

- ・生徒会を中心とした各種行事や全校活動の企画を通して、生徒の主体性をより育んでいく。
- ・学級活動においてクラスの諸課題を共有するとともに、折り合いをつけながら意思決定していく活動をより一層推進していく。
- ・KOKUFUトークなどの人間関係づくりを通じて、共感的人間関係や自己肯定感の向上を図り、いじめを許さない雰囲気づくりに努める。
- ・自分の睡眠習慣への振り返りや睡眠の大切さを実感するための「まどろみタイム」の実施。

活用力の向上に向けて

- ・生徒「自ら」が気づき、考え、実行できる態度が身につくよう学校研究を推進していく。
- ・様々な情報から必要な情報を取り出し、関連付けながら、考えたり、説明したりするような取り組みを各教科で行う。
- ・定期テスト問題に活用問題を取り入れ、結果を分析して、活用力の向上に役立てる。

（2）ご家庭にお願いしたいこと

子どもたちの学力向上やより良い人格形成には、規則正しい生活が基盤となります。

メディア（スマホ、ゲーム）の使用時間や家庭学習の時間確保、起床時刻の乱れが本校の課題となっています。家庭での時間の使い方やメディア利用についての約束事について、学校でも取りあげていきたいと思いますので、お子さまと一緒に話し合っていただけると助かります。